

## 1日1日を大切に。

第13期OB 山本 彩里

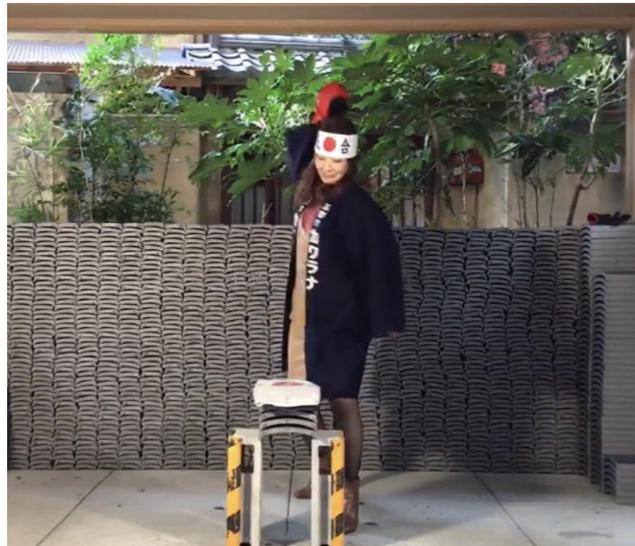
Yesterday is the past tomorrow's the future but today is a gift. That's why it's called the present.

——Bil Keane

2019年をいかにして過ごしてきたかを振り返ってみると、まさに上記で引用したように、毎日を天から与えられた贈り物のように過ごしてきたように思います。社会人になって初めて、複数の友人から結婚式に招待され、「あー、自分もこんな歳になったのだ」と自覚せざるを得ない機会をいただいた年でした。一方で、まだまだやっていないこと、挑戦したいことがあるなど、気づくことができた年でもありました。どうでもいい報告かもしれませんが、そんな私が昨年から1年間で挑戦してみたことをつらつらと書いてみようと思います。

### ◆挑戦①：瓦割り

前々から興味を持っていたのですが、浅草で気軽にできる場所があると聞き、2019年も気を引き締めてがんばろう、と自らを鼓舞するために、会社の同期女子3名とともに、挑戦することにしました。力作業には自信のある方だったのですが、瓦5枚という最少の枚数ですら、1度で割ることができず、なんとも中途半端な気持ちになりました。あることをアピールしたい男性が、女性を連れて訪れることもあるそうなので、気になる方はぜひ行ってみてくださいね。



結局瓦は3枚しか割れませんでした。

### ◆挑戦②：アメリカ一人旅

高校時代の友人の結婚式をきっかけに、GWに初めてアメリカ東海岸に上陸しました。1人旅ということもあり、高級なホテルなどには宿泊せず、airbnb やホステルを転々としながら、充実した7日間を過ごし

ました。1 番ヒヤヒヤしたのは、友人の結婚式に向かうため、現地でレンタカーを借り国際免許で運転をしたのですが、やはり土地が広大で、移動距離が長いから、



高校時代の親友の結婚式@バージニア（著者は右から 2 番目）

から、高速道路を走る車の平均速度が日本と比べて圧倒的に速く、常に時速 150 キロで走行しなければならなかった時です。今までで 1 番死と隣り合わせであると感じたかもしれません。一人旅には向き不向きがありますが、個人的にはとても濃密な時間を過ごせたように思います。ちなみに著者が遠方から来たことを知り、参列した女性全員が気を遣ってブーケトスのキャッチを拒否したために、ブーケをいただくことになりました。しばらく予定はありません。

### ◆挑戦③:音楽フェスに行く

元来音楽フェスには全く縁のなかった私ですが、友人に誘われて夏休みの終わりにサマソニに行ってみました。年齢層が近い方が集まっていたということもあるのか、初対面の人とも音楽を通じて仲良くなれるということを実感できとても楽しかったです。ちなみに、女性陣たちのさまざまなファッションに身を包んでいて、聴覚だけではなく、視覚的にも多くの刺激を受けました。



友人たちの間で、ドレスコードを「青」と決めただけなのに、忠実にそのドレスコードを守っていたのは、6 名中 3 名という結果に笑

#### ◆挑戦④：ヨーロッパ上陸

帰国子女だからかよく驚かれるのですが、私は過去に一度もヨーロッパの国を訪れたことがありませんでした。「今年こそは」と思い、友人と一緒にポルトガルに行きました。街全体がとても趣があって素敵だったのですが、大好きなジブリ作品「魔女の宅急便」の舞台となったと言われるポルトの街が、特に綺麗だったのが印象に残っています。偶然ですが、帰国して約2週間後に、観光関連のジャーナルの学会から、ジャーナル投稿のオファーが来ており、その学会の開催地がポルトガルのリスボンだったので、英論チームに冗談で「ジャーナル投稿して、リスボン行こうよ」と提案したところ、例の如く、真面目で面白みに欠ける第13期川村くんに、「旅行で行ったほうが早くない？」と一蹴されてしまいました。ポルトガル、とてもおすすめです。是非王道ヨーロッパ旅行では無い違った体験をされたい方は、ぜひ行ってみてくださいね。ポートワインのワイン工場がたくさんあり、試飲会などもあるので、お酒好きにはたまりません。



「魔女の宅急便」の世界そのもの。



ポートワインのワイン工場

以上、乱文で申し訳ございませんが、私の2019年の挑戦の記録でした。2020年はさらに様々なところに目を向けて、視野を広げていきたいなと思っております。何かオススメな場所、モノ、コト、ありましたら、教えてください。